

**一般社団法人日本脊椎脊髄病学会**  
**令和元（平成31）年度第4回 理事会 議事録**

令和元年5月9日（木曜日）12：20～13：50

パシフィコ横浜会議センター3階 313

【出席した理事】大川 淳、川上 守、西良浩一、島田洋一、高相晶士、種市 洋、千葉一裕、  
永島英樹、中村博亮、中村雅也、長谷川和宏、前田 健、松山幸弘、渡辺雅彦

【欠席した理事】山下敏彦、山田 宏

【出席した監事】加藤文彦、小西宏昭

【議事の経過の要領及びその結果】 中村博亮理事長は定款の定めにより議長となり、開会を宣言し、直ちに議事に入った。

### **審議・決議事項**

#### **1. 用語委員会より：用語集の進捗と予算**

報告事項のみとなったため、にて報告

#### **2. その他**

##### **・委員の追加と委嘱関連**

プロジェクト委員会より

川上理事より、新プロジェクトの推進に当たり室谷医師（久留米大学）の委員追加希望があり、検討のうえ承認した。

教育研修委員会より

西良理事より、研修コース実施のためのスタッフメンバーの増員希望があり、次回理事会までに3名の候補者を委員会内で検討し、理事会に上申することになった。

西良理事より、「研修コース（内視鏡コース）」の内容変更の手順について質問があり、中村理事長が委員会内で検討した結果を理事会に上申するように指示した。

定款等検討委員会より

松山副理事長より、定款等検討委員会委員長に関して、名誉会員になられた徳橋先生に代わり二階堂琢也委員に委嘱することが提案され、承認された。

##### **・新技術評価検証委員会より：骨粗鬆症性椎体骨折に対する経皮的椎体形成術(PVP)の適応拡大の件【資料1】**

渡辺理事が、日本 IVR 学会から依頼のあった経皮的椎体形成術(PVP)の適応拡大の共同提案について、JSSR として協力を見送ることが報告され、回答書の文案について議論された。

#### ・評議員選考委員の件

中村理事長より、2年に一度の評議員選考にあたり、九州地区の松永先生（当時監事）を小西監事に変更して以下の選考委員とする提案があり、承認された。

北海道地区：山下敏彦

東北地区：島田洋一

関東地区：大川 淳

中部地区：加藤文彦

近畿地区：中村博亮

中四国地区：永島英樹

九州地区：小西宏昭

#### ・JSR 編集委員会より

長谷川理事より『JSR』学会誌の編集・製作費用の詳細な見積りが供覧され、杏林舎との契約を進めていくことになった。

#### ・英文誌編集委員会より

山田担当理事が欠席のため、代理の川上理事より、エルゼビア社の大規模データベース「スコーパス (Scopus)」へ『SSRR』を搭載する提案がなされたが、初期費用 39 万円および年間運用費 12 万円以外の情報が不足とされ、次回以降の理事会で再検討することになった。

### 審議・報告事項

#### 1. 用語委員会より：用語集の進捗と予算

高相理事が、南江堂との協議により「用語集」が予算通り 1000 万円弱で作成可能であり、年内には発刊できる予定であることを報告した。

#### 2. 脊椎外科医の放射線被曝についての調査

松山副理事長が、放射線学会から医師の放射線被ばくに関するアンケート調査に協力の要請があったと説明した。日整会も同アンケートに協力してパイロット調査を行う予定があり、調査対象の半数程度が脊椎外科であることから、当学会としては日整会での動向を待つことになった。

#### 3. データベース委員会より：OLIF51 のレジストリーに関して

種市理事が、OLIF51 のレジストリーが近日中に学会内倫理委員会の審査予定であると報告した。新技術であっても臨床試験を通して薬事承認されていれば観察研究となり、レジストリー開始にあたり原則はインフォームドコンセント (IC) でも、各データ登録機関の倫理委員会の判断でオプトアウトでも可とする方針を説明した。

#### 4. 国際委員会より

中村雅也理事が、以下について報告と連絡をした。

国際委員会で進めている6月の「APSS ベーシックコース 2019」についての準備状況報告  
2021年に日本でAPSS開催されるにあたり、理事の入会勸奨  
2020年のSPINE WEEKへのシンポジウムの提出

## 5. 専門医制度委員会より

中村雅也理事が、脊椎脊髄外科専門医の資格取得の勸奨について理事会のコンセンサスを得たいと発言した。

前田理事より、JSSR 外科指導医と脊椎脊髄外科専門医、日整会の脊椎脊髄病医（以下、病医）の3つの資格の関係について質問があり、大川理事が専門医資格は広告可否と関連するが、外科指導医は技術認定に関連する資格でまったく別のカテゴリーの資格と考えるのがよいと意見を述べた。

島田理事が、外科指導医の新規・更新等に、別法人である日整会の病医資格が必須な点について再検討を提案した。

小西監事が、当学会指導医の病医資格を免除すると、講習会受講参加者の減少など日整会側に問題が生じないかと指摘したが、島田理事より日整会の講習会参加者には外科指導医の参加は少なく、この問題は当学会理事会で検討すべき課題であると発言した。

種市理事が、病医資格が必要条件になった経緯について、資格創設時に任意団体であった当学会の資格が、係争時に問題とされないためであったと説明した。

本件については、引き続き指導医制度委員会での検討および次回理事会での結果の報告が指示され、前田理事が了解した。

## 6. その他

### ・会員データの管理項目追加について【資料3】

事務局より、以下のような提案がなされた。

マイページにより多くの情報を掲載する提案があった。具体案としては

- A 医療倫理単位の登録
- B 学会参加履歴の登録
- C 学術集会主演者の登録
- D オフィシャルジャーナル2誌（『JSR』『SSRR』）への投稿状況登録
- F 『SSRR』査読担当履歴登録

一同検討の結果、事務局の提案を進めていく方向で検討することになり、今後、事務局にて提案した全項目について作業見積を作成する。

### ・英文誌編集委員会より

千葉理事が『SSRR』について、PubMed セントラルの審査をすべて通過したと報告した。

・JSR 編集委員会より

長谷川理事が、昨年日本側弯症学会特集号において、二重投稿と指摘された論文があり、著者の希望に沿って『JSR』からの取り下げを認めることになったと説明した。事象発生の原因の一つとして、現在の『JSR』の投稿規程に不備があり、今回の件が二重投稿に当たるのか否かが著者にはわからなかったことがあるとして、今後の委員会内検討を経て、投稿規程に修正を加えることになった。

以上

令和元年 5月 9日

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会

議長 副理事長 松山幸弘

監事 加藤文彦

監事 小西宏昭